

第3編

•

のり面によく見られる植物

I. 草本植物（在来種）		III. 木本植物（在来種）	
アカソ／クサコアカソ／ヤブマオ	3- 1	アカマツ	3-25
アキノエノコログサ	3- 1	アカメガシワ	3-25
／エノコログサ／キンエノコロ		アケビ／ミツバアケビ	3-26
アキノキリンソウ	3- 2	イタヤカエデ	3-26
アキノノゲシ	3- 2	イヌコリヤナギ	3-27
イシミカワ	3- 3	イヌザンショウ／サンショウ	3-27
イタドリ／オオイタドリ	3- 3	ウツギ	3-28
イヌタデ／オオイヌタデ	3- 4	ウリカエデ	3-28
イヌホオズキ／アメリカイヌホオズキ	3- 4	エゴノキ	3-29
オオバコ／ヘラオオバコ	3- 5	エビヅル	3-29
オカトラノオ	3- 5	オオバヤシャブシ	3-30
オトコエシ	3- 6	オノエヤナギ	3-30
カタバミ	3- 6	カツラ	3-31
ギシギシ／エゾノギシギシ	3- 7	カラスザンショウ	3-31
キツネノマゴ	3- 7	キヅタ	3-32
キンミズヒキ	3- 8	キブシ	3-32
クズ	3- 8	クサギ	3-33
ゲンノショウコ	3- 9	ケヤマハンノキ	3-33
コウゾリナ	3- 9	コナラ	3-34
ススキ	3-10	コマツナギ	3-34
タケニグサ	3-10	サルトリイバラ	3-35
チヂミザサ	3-11	スギ	3-35
ツユクサ	3-11	ソヨゴ	3-36
ツリガネニンジン	3-12	タニウツギ	3-36
ドクダミ	3-12	タラノキ	3-37
ヌスビトハギ	3-13	ツタウルシ	3-37
ノアザミ	3-13	ツルアジサイ	3-38
ノアズキ	3-14	ニガイチゴ	3-38
ヒナタイノコズチ／ヒカゲイノコズチ	3-14	ヌルデ	3-39
ヒヨドリバナ	3-15	ネムノキ	3-39
フキ／アキタブキ	3-15	ノブドウ	3-40
フタバムグラ	3-16	ノリウツギ	3-40
ヘクソカズラ	3-16	バッコヤナギ	3-41
ミツバツチグリ	3-17	ヒサカキ	3-41
メドハギ	3-17	ヒノキ	3-42
メヒシバ／オヒシバ	3-18	ヒメコウゾ	3-42
ヨモギ	3-18	フジ	3-43
		ミズキ	3-43
II. 草本植物（外来種）		ムラサキシキブ／コムラサキ	3-44
アメリカセンダングサ／	3-19	ヤマグワ／マダワ	3-44
コセンダングサ、シロノセンダングサ		ヤマハギ	3-45
アレチヌスビトハギ	3-19	ヤマハゼ	3-45
オオアレチノギク／アレチノギク	3-20	ヤマブドウ	3-46
シロツメクサ／ムラサキツメクサ	3-20	リョウブ	3-46
セイタカアワダチソウ	3-21		
ヒメジョオン／ハルジオン	3-21	VI. 木本植物（外来種）	
ヒメムカシヨモギ	3-22	イタチハギ	3-47
ブタクサ	3-22	ギンネム	3-47
メマツヨイグサ	3-23	トウネズミモチ	3-48
メリケンカルカヤ	3-23	ニセアカシア	3-48
ヨウシュヤマゴボウ	3-24		
ワルナスビ	3-24		

I. 草本植物（在来種）

アカソ（イラクサ科カラムシ属）

学 名：*Boehmeria tricuspis*

分布：北海道、本州、四国、九州



葉は、対生して、長さ8～20cmの卵円形、3本の脈が目立つ。先が大きく3裂して、中央が長く尾状に伸びる。茎や花序の軸が赤味を帯びる。



花は、7～9月頃に、雌花序を茎の上部につける。雄花序は茎の下部につく。果実は球状で、集まってつく。

【ヤブマオ】

高さが50～80cm程度に達する、多年草。山野のやや湿っている場所に生える。斜めに立って生えていることが多い。



【クサコアカソ】



アカソより葉が小さく、先端が3裂せずに尾状にとがる。茎の下部につく雄花の花被片は普通4個で雄しべも4個。

アカソのように、茎や花序の軸が赤味を帯びることがない。縁に粗い鋸歯があり、葉の先ほど大きな鋸歯になる。

アキノエノコログサ（イネ科エノコログサ属）

学 名：*Setaria faberi*

分布：北海道、本州、四国、九州



高さが50～80cm程度に達する、1年草。日当たりの良い空き地などに生える。葉は、長さ30～40cm、幅2cm程度で広線形。

【エノコログサ】



高さ30～80cm程度に達する。葉は、長さ10～20cm程度で、アキノエノコログサよりも少し小さい。エノコログサ類は、穂が子犬のしっぽに似ていて、「猫じゃらし」とも呼ばれ、親しみのある野草である。

【キンエノコロ】



穂の刺毛が、黄金色であることから呼ばれている。穂は、5～10cm程度の円柱状で、直立して垂れない。写真上左は、アキノエノコログサのなかに直立した金色の穂が目立つ。



花は、8～11月頃に、5～12cm程度の円柱状の穂に密集した小穂につける。穂には長い毛があり、先が垂れる。全体的にやわらかい。

アキノキリンソウ（キク科アキノキリンソウ属）

学 名：*Solidago virgaurea*

分布：北海道、本州、四国、九州



高さが 30 ～ 80cm 程度に達する、多年草。
日当たりの良い山野に生える。



葉は、互生して、長さ 7 ～ 9cm の卵形～卵状楕円形で基部は細い。縁に内曲する鋸歯がある（写真左）。



花は、8 ～ 11 月頃に、茎の上部に直径約 1.3cm の黄金色の頭花（キク科の花序のつくりで、多数の小さな花が集まって 1 個の花のような花序となるもの）を多数つける。頭花はつくりの異なる 2 種類の花（舌状花：周辺、筒状花：中央）で構成されており、内側の筒状花が結実する。

秋に黄金色の美しい花を咲かせ、秋草の代表的な種である。

和名の「秋に咲く麒麟草」は、花が美しいのでペンケイソウ科のキリンソウにたとえたものという。

アキノノゲシ（キク科アキノノゲシ属）

学 名：*Lactuca indica*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



高さが 60cm ～ 2m 程度に達する、
1 ～ 2 年草。
日当たりの良い荒れ地などに生える。

葉は、互生して、長さ 10 ～ 30cm で、
逆向きの羽状に裂ける（写真右）。葉
質は、やわらかくて、基部は茎を抱か
ない。

茎は直立する。茎と葉には、毛がない。
切断すると、白い乳液が出てくる。



花は、8 ～ 11 月
頃に、茎の上部に
淡黄色（まれに白
色、淡紫色のもの
がある）の直径 2
cm 程度の頭花を円
錐状につける（写
真上左）。花は、
昼間に開いて夕方
に閉じる。



種子は集まってつき、頭
に、長さ 8mm 程度の白い
綿毛をつける（写真上
右）。

イシミカワ（タデ科イヌタデ属）

学 名：*Persicaria perfoliata*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



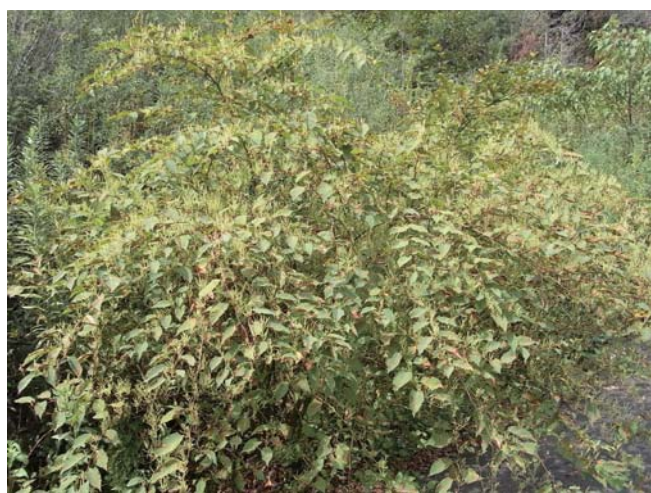
茎には下向きの鋭い刺がある（写真上左）。
花は、7～10月頃に、茎の先や葉のわきに淡緑色の小さな花を10～20個かたまって咲かせる。花のかたまりの下には、丸い葉状の苞がある。花が終わると、直径3mm程度の多肉質の球状の果実になる。果実は、はじめは緑白色であるが、紅紫色、青藍色に変化する（写真上右）。果実の中の種子は黒色。

つる性の1年草で、茎の長さは1～2m程度まで伸びる。
道ばたや河原などに生える。
葉は、互生して、長い葉柄をもつ三角形で、茎との付け根に皿のような丸い托葉がある。

イタドリ（タデ科イタドリ属）

学 名：*Reynoutria japonica*

分布：北海道、本州、四国、九州



花は、7～10月頃に、葉のわきから枝を出して、その先に円錐状に集まった小さな花を多数つける。
雄花には雄しべが8個ある。雌花には3個の花柱がある（写真左上）。雌花は、花の後で外側3個の花被片（花びら）が翼状に大きく張り出して、種子を包み込む（写真左下）。種子は、黒褐色で光沢がある。

高さが50～150cm程度に達する、多年草。
日当たりの良い山野でいたるところに生える。
雌雄異株。

【オオイタドリ】



葉は、互生して、長さ6～15cmの卵形～広卵形で、先端が尖る。基部は浅いハート形で、葉柄がある。
茎は、はじめは紅紫色の斑点があり、太くなるが、中は空洞。若い茎は食べられる。



北海道と本州中部以北に分布する。

イタドリと比べると非常に大型で、高さ3mに達するものもある。根茎は太く、褐色で、枝を張って弓状に曲がる。葉も大きく、長さ15～30cmにもなる長卵形か卵形。葉裏は粉白色でイタドリの緑色と区別できる。

イヌタデ（タデ科イヌタデ属）

学 名：*Persicaria longiseta*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



高さが 20 ～ 50cm 程度に達する、1 年草。
道ばたなどの荒れ地などに生える。



茎は、赤味を帯びていて、下の茎は地面を這う。葉は、互生して、長さ 3 ～ 8cm の広披針形～披針形で、先端が尖る。托葉鞘（タデ科の托葉のつくりで膜状の鞘のような部分）の縁には毛がある。



花は、6 ～ 10 月頃に、枝先に長さ 1 ～ 5cm 程度の穂状に、紅色（まれに白色）の小さな花を多数つける。種子は、3 稜形で光沢がある黒色。

【オオイヌタデ】



茎が高く、節はふくれ、上部が分岐して、高さ 2m 程度に達する。葉は、長さ 15 ～ 25cm の披針形で先が長く尖る。托葉鞘にはふつう毛がない。花は、6 ～ 11 月頃に、長さ 3 ～ 7cm 程度の長い総状花序に、淡紅色または白色の花を多数つけ、先が垂れ下がる。種子は扁平な円形で黒褐色。

イヌホオズキ（ナス科ナス属）

学 名：*Solanum nigrum*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



高さが 30 ～ 60cm 程度に達する、1 年草。
道ばたや畑などの荒れ地などに生える。

茎は直立して、よく枝分かれする。
葉は、互生して、長さ 3 ～ 10cm の広卵形で、縁には波形の鋸歯がある。

名前は、ホオズキやナスに似るが、役に立たないことによる。



花は、8 ～ 10 月頃に、茎の途中から枝をだして、その先にやや散らばって、直径 6mm 程度の白い花を 4 ～ 8 個咲かせる。萼は杯状で浅く 5 裂する。花冠は深く 5 裂して、反り返る。果実は多肉質で、直径 7 ～ 10mm 程度の球形で黒く熟すが光沢はない。

【アメリカイヌホオズキ（外来種）】



北アメリカ原産の 1 年草で、イヌホオズキに似るが、花は 2 ～ 4 個の淡紫色か白色。果実は、直径 5 ～ 8mm の球形で、光沢のある黒色。

オオバコ（オオバコ科オオバコ属）

学 名：*Plantago asiatica*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



日当たりの良い道ばたや空き地によくみられる多年草。踏み固められた道路脇などにもふつうに生える。葉や種子が咳止めの薬に使われる。

葉は、10枚程度つき、すべて根生（地上茎がとても短く、葉が根際から出る）して、長さ4～15cm、幅3～8cmの卵形または広卵形で、数本の脈が目立つ。葉面が波打つものが多い。葉柄は、葉と同じくらいの長さがあり、断面が半月形。



花は、4～9月頃に、高さ10～20cm程度の茎を葉の間から数本出して、小さな白い花を穂状に密につける。花は、花序の下から上に順に咲き上がる。

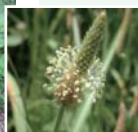


果実は、長楕円形の蓋果（中央部で横に割れて蓋が取れるように裂ける）で、上半部のやや尖った円錐状の部分がとれて種子がでる。種子は黒褐色で、1果内に6～8個。

【ヘラオオバコ（外来種）】



ヨーロッパ原産の1年草。葉は、10～30cmで細長く、ヘラ形ですべて根生する。花は、6～8月に20～70cmの茎に白い花を下から上に順に咲かせる。外に長く飛び出した雄しべが特徴的。



オカトラノオ（サクラソウ科オカトラノオ属）

学 名：*Lysimachia clethroides*

分布：北海道、本州、四国、九州



高さが60cm～1mになる多年草。丘陵地などの日当たりの良い草地などに生える。穂状の花序が、虎の尾のようなことから呼ばれる。茎は円柱形で、短い毛が生え、基部はやや赤みを帯びている。

葉は、互生して、長さ6～13cm程度の長楕円形または狭卵形で、先が尖る。基部は茎側に狭まってほとんど葉柄がない。



花は、6～7月頃に、茎の先に長さ10～30cmの花序をだして、白い小さな花をたくさんつける。花は下から咲き上がる。

花序は直立せずに、上部が傾き、一方に片寄る。花冠は、直径約1cmで、深く5裂する。



オトコエシ（オミナエシ科オミナエシ属）

学 名：*Patrinia villosa*

分布：北海道、本州、四国、九州



茎の下部には白い粗毛が多いが、上部では少ない。葉は、対生して、長さ3～15cm程度、卵形か羽状に切れ込み、鈍い鋸歯がある。



花は、8～10月頃に、多く枝分かれする散房花序（下部の花軸ほど長い柄を持ち、花序の上面が平らになる花序のつくり）で、白い花を多数つける。花冠は5裂して、筒部は短い。



果実は、長さ約3mmの倒卵形、円心形の翼がある。

高さが60cm～1m程度になる、多年草。日当たりの良い山野にふつうに生える。根元から長い走出枝（匍匐する茎と葉で、途中で根を下ろさない。ランナーと呼ばれる）をだして、先端に新苗をつくる。

カタバミ（カタバミ科カタバミ属）

学 名：*Oxalis corniculata*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



花は、5～9月頃に、上部の葉のわきから長い柄をだし、直径8mm程度の黄色い花を1～8個、咲かせる。



果実は、花の後で花をつけていた柄が下を向き、その先に円柱形で全面に密毛がある果実をつける。

熟すと5裂して、中にある多数の種子をはじき飛ばす。

高さが10～30cm程度になる、多年草。道ばたや耕地などにふつうに生える。和名は、葉が睡眠運動により、夕方になって閉じると一方が欠けて見えることによるといわれる。

茎は、よく枝分かれして、下部が地を這って広がり、上部は立ち上がる。葉は、ハート形の3小葉からなり、葉柄が長さ2～7cmで、基部には小さな托葉がある。

葉や茎にシュウ酸を含むので、酸味がある。

ギシギシ（タデ科ギシギシ属）

学 名：*Rumex japonicus*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



根生葉で、冬を越す。

高さが 50cm～1m になる多年草。
道ばたや荒地のやや湿ったところに生える。
根は黄色で、太くて大きい。
茎は、直立して緑色、上部は分岐する。
葉は、長さ 10～25cm の長楕円形で、基部はやや心形または円形、先は鈍形。葉の縁は波打つ。



花は、6～8月頃に、茎の上部に総状花序をだして、淡緑色の小さな花を輪生状につける。果実は、下部の縁に刺状の突起があり、上部の中央にコブ上部に、長さ約 2.5mm 程度の種子を含む。

【エゾノギシギシ（外来種）】



ヨーロッパ原産の多年草。茎や果実はやや赤みを帯びる。ギシギシは緑で赤くならない。沖縄を除く各地の道端や野原に生える。



果実の翼の縁に刺状の突起がある。ギシギシは翼の縁は低い鋸歯で、刺状でない。

キツネノマゴ（キツネノマゴ科キツネノマゴ属）

学 名：*Justicia procumbens*

分布：本州、四国、九州



高さが 10～40cm になる 1 年草。
野原や道ばたなどにふつうに生える。
茎は 6 稜で、まばらに枝分かれして、斜上する。葉とともに短い毛が生える。
葉は、対生して、長さ 2～5cm の卵形で、先がやや尖り、基部は鋭形。



花は、8～10月頃に、枝先に円錐形または短い円筒状の穂状の花序をだして、長さ 8mm 程度の淡紅紫色で唇形の花を密集してつける。萼や苞の縁に白い毛がある。雄しべ 2 個は上唇部につく。

果実は、長さ約 6mm、熟すと上部から 2 裂し、種子を飛ばす。種子は卵円形。

キンミズヒキ（バラ科キンミズヒキ属）

学 名： *Agrimonia pilosa*

分布：北海道、本州、四国、九州



高さが 30 ～ 80cm 程度になる多年草。道ばたや草地などにふつうに生える。和名は、細長い黄色の花序をタデ科のミズヒキに例えたことによるといわれる。

茎や葉に、毛が多い。

葉は、奇数の羽状複葉（先端の葉は 1 枚）で、小葉は 5 ～ 9 個で大小がある。葉の縁には、とがった粗い歯牙（鋭い山形の鋸歯）があることが多い。托葉は半卵形で、内側に湾曲している。



花は、7 ～ 10 月頃に、茎及び枝先に、細長い花穂をだして、直径 7 mm ～ 1 cm の黄色い花を多数つける。萼が発達し筒状になる（萼筒）。萼片は 5 個。



果実は萼筒で包まれ、萼筒上部の縁に多数あるカギ状の刺により動物について運ばれる。

クズ（マメ科クズ属）

学 名： *Pueraria lobata*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



大型のつる性の多年草。秋の七草の一つ。山野のいたるところに生える。生育旺盛で他の樹木や草に絡んで覆ってしまう。

根は太く、大きくて、多量のデンプンを含み、葛粉がとれる（写真右下）。

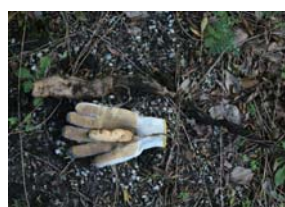
茎の基部は木質となる。全体に黄褐色の粗い毛が多い。葉は、3 小葉からなり、小葉の長さは 10 ～ 15 cm で、浅く 2 ～ 3 裂するものが多い。裏面には白い毛が密生する。



花は、7 ～ 9 月頃に、長さ 2 cm 程度の紅紫色の蝶型の花を多数つけ、大きな花序になる。ぶどうに似た香りがする。



果実は、長さ 5 ～ 10 cm の豆果（種子やさやの中に並ぶ果実のつくり）で、褐色の剛毛が密生する。中に、2 ～ 3 個の種子が入っている。



ゲンノショウコ（フウロソウ科フウロソウ属）

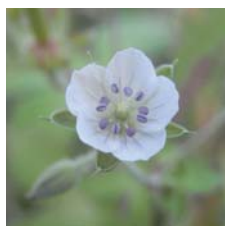
学 名：*Geranium nepalense*

分布：北海道、本州、四国、九州



高さが 30 ～ 60cm になる多年草。
山野にふつうに生える。

茎はよく枝分かれする。茎と葉には毛がある。
葉は、掌状に 3 ～ 5 深裂して、縁に深い鋸
歯がある。若葉には紫黒色の斑点がある。



花は、7 ～ 10 月頃、長い柄の先に、
直径 1.5 ～ 2mm 程
度の白色～紅紫色
（淡紅色）の花を
2 個つける。花弁
と萼の長さはほぼ
同じ。



果実は、長さ 1.5cm 程度の円柱
形で、短毛と腺毛（毛のような
突起物で、液体などを分泌する）
が密生する。

熟すと 5 裂し、裂片は種子を 1
個ずつ巻き上げる。裂開した形
が御輿の屋根に似ているので、
別名のコシグサがある（写真
左）。

種子は褐色でなめらか。

古くから下痢止めとして用いられており、煎じて飲む
と薬効がただちに現れるというところから、「現の証
拠（ゲンノショウコ）」とされたという。

コウゾリナ（キク科コウゾリナ属）

学 名：*Picris hieracioides*

分布：北海道、本州、四国、九州



高さが 30cm ～ 1m になる越年草（秋から翌年
春～夏頃までの生活史をもつ）。

野原や道ばたなどにふつうに生える。

全体に淡い褐色または赤褐色の剛毛がびっしり
とつく。根生葉は、花期には枯れる。

葉は、下部では倒披針形で基部が狭まって柄に
翼があり、中部では披針形で基部は茎を抱く。



花は、5 ～ 10 月頃に、
枝先に直径 2 ～ 2.5cm
程度の黄色の頭花をつ
ける。

種子は、赤褐色で紡錘
形、頭に長さ 7mm 程
度の羽毛状の綿毛をつ
け、風に飛ばされる。



茎や葉に剛毛があり、
さわるとざらついて手
が切れそうなのをカミ
ソリに例えて、和名の
「剃刀菜（こうぞりな）」
であるといわれる。

ススキ（イネ科ススキ属）

学 名：*Miscanthus sinensis*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



8～10月頃に、長さ20～30cm程度の穂をつける。花は、穂を構成する長さ5～7mm程度の2個ずつ対になった小穂の先に黄色の葯（雄しべの一部で、花粉をつくる器官）が垂れ下がる。花粉を受ける柱頭は、紫黒色で羽毛状。

高さが1～2m程度になる大型の多年草。日当たりの良い山野のいたるところに生える。秋の七草の一つ（尾花）。

茎は叢生（茎が地際で多くに分かれる）して、大きな株をつくる。

葉は、長さ50～80cmの直線形でかたく、縁はざらつく。中脈は太い。葉の基部が梢状になって茎を包む。



果実は、先端には芒とよばれる剛毛が突き出ている。基部に長い毛をもち、風に飛ばされる。

タケニグサ（ケシ科タケニグサ属）

学 名：*Macleaya cordata*

分布：本州、四国、九州



花は、7～8月頃に、茎の先に大型の円錐状の花序をつくり、白い花を多数つける。花に花弁はなく、雄しべがたくさんあって、葯は線形で糸状の花糸につく。



高さが1～2m程度になる大型の多年草。日当たりの良い道ばたや荒れ地に生える。

茎は中空。茎や葉の裏は、粉白色。茎や葉を切ると黄色の乳液が出る。

葉は互生して柄があり、長さ10～30cmで、菊の葉のように裂け、裏面にはふつつ縮毛が密生する。



果実は、長さ2cmほどで平たく、中には2～3個の黒い種子が入っている。白く見えるのは、エライオソーム（アリの餌になるもので、種子を運んでもらうことができる）。

チヂミザサ（イネ科チヂミザサ属）

学 名：*Oplismenus undulatifolius*

分布：北海道、本州、四国、九州



高さが 10 ～ 30cm になる多年草。

山野の林の中や道ばたに生える。

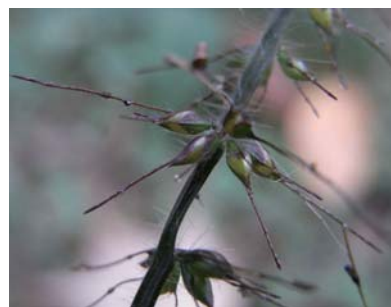
茎は細く、地を這って斜上する。開出する毛の多いものと少ないものがある。

葉は、長さ 3 ～ 7cm 程度、広披針形で先が尖る。縁は、多少波うつ。

葉の幅が広くて、縁が縮れているところが笹に似ていることから、和名の「縮み笹」であるといわれる。



花は、8 ～ 10 月頃に、長さ 6 ～ 12cm の直立した穂(花序)に、6 ～ 10 個の短い枝をだして、小穂につける。雌しべは柱頭の羽毛状の毛が目立ち、雄しべの紫色の葯も目立つ。



果実は、長さ 3mm 程度の狭卵形で、小穂から伸びている芒は紫色を帯び、成熟すると粘液がついてキラキラと光る。粘液のついた芒が動物に張り付いて種子が運ばれる。

ツユクサ（ツユクサ科ツユクサ属）

学 名：*Commelina communis*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



高さが 30 ～ 50cm になる 1 年草。

野原や道ばたなどにふつうに生える。

茎の下部は、地上を這ってよく分岐し、上部は斜上する。

葉は、互生して、長さ 5 ～ 8cm の卵状披針形で、無毛で先が尖る。基部は膜質の鞘状で、上縁に長い毛があり、茎を抱く。



花は、6 ～ 9 月頃に、2 つ折れになった舟形の苞に包まれた花序をだす。花は 1 個ずつ苞の外に出て開き、半日でしぼむ。花弁 3 個のうち 2 個は大きくて鮮やかな青色で、1 個は白色で小さい。



果実は、苞のなかで成熟して 2 裂する長楕円形。

種子は 4 個あり、半楕円形で黒褐色、表面に凹凸がある。

ツリガネニンジン（キキョウ科ツリガネニンジン属）

学 名： *Adenophora triphylla* var. *japonica*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄

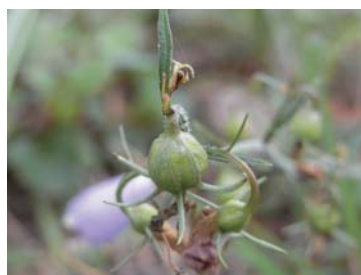


高さが 40cm～1m 程度になる多年草。
山野、高原にふつうに生える。

茎は、ほとんど分岐せず、
切ると白い乳液がでる。
葉は、3～4 輪生で、卵状
楕円形で、縁に鋸歯があり、
柄は短い。
若芽は、「ととき」と呼ば
れ山菜として食用される。



花は、8～10 月頃
に、枝先に円錐形に
花序をつくり、鐘形
で先が 5 裂した青
紫色の花を下向きに
咲かせる。花柱は花
冠よりやや突き出
す。



果実は、7mm 程度
の球形で、熟すと果
実に穴が空き、長さ
1.5mm 程度の種子が
こぼれる。
写真は若い果実。

のり面によく見られる植物

I・草本植物（在来種）

II・草本植物（外来種）

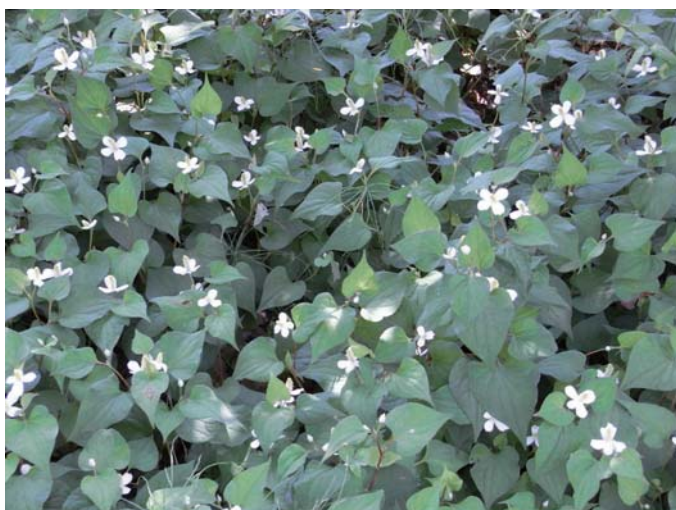
III・木本植物（在来種）

IV 木本植物（外来種）

ドクダミ（ドクダミ科ドクダミ属）

学 名： *Houttuynia cordata* var. *anica*

分布：本州、四国、九州、沖縄



高さ 30～50cm の多年草。半日陰地に群生する。
細長い地下茎をだして横に這う。
全体に特有の臭気がある。

葉は互生し、長さ約 5cm のハート型で、先は短く尖
る。光沢のない暗緑色で、茎とともにしばしば赤み
を帯びる。



花は、6～7 月頃に茎の
上部に長さ 1～3cm の穂
状の花序を出し、小さな
花を多数つけ、下から順
に咲く。苞は花卉のよう
で長さ 2cm 程度、白色で
4 個あり、花の後にも残
ってよく目立つ。



民間薬としてよく利用され、名は、毒や痛み
に効くことから「毒痛み」、あるいは毒を矯（た）
める「毒矯め」などが転じたものといわれる。

ヌスビトハギ (マメ科ヌスビトハギ属)

学 名: *Desmodium podocarpum* subsp. *oxyphyllum*

分布: 北海道、本州、四国、九州、沖縄



花は、7～9月頃に、葉の腋から細長い花序をだして、淡紅色で長さ3～4mmの蝶形の花をまばらにつける。



高さが60cm～1.2mになる多年草。

平地から山地の草むら、道ばたや林縁にふつうに生える。

根元はやや木質化する。

葉はまばらにつき、互生し、3小葉からなり、小葉は卵形～長卵形。先端の小葉は長さ4～8cmで、他はやや小さい。

和名の「盗人萩」は、果実の形をしのび足で歩く、盗人の足の形に見立てたともいわれている。

果実は、2つの小さな節果（さやが中の種子毎にくびれて分離する）からなり、個々は半月形で長さは5～7mm。

写真右の種子は、2先端の節果が分離した後の状態である。中央の種子には別の節果がくっついた状態になっている。これは、節果の表面にカギ状の微細な毛があることによる。これで人の衣服や動物の体などにくっついて種子が運ばれる。

ノアザミ (キク科アザミ属)

学 名: *Cirsium japonicum*

分布: 本州、四国、九州



高さが50cm～1mになる多年草。

山野にふつうに生える。

春に咲くアザミはふつうにはこの種だけである。

全面に白毛があるが、ないものもある。

葉は互生し、長楕円形で深く羽状に中裂し、先端に刺がある。冬を越した根生葉は花の頃も残り、中部の葉と同様に基部は茎を抱く。

花は、5～8月頃に、枝の先に直立した直径4～5cmの紅紫色の頭花をつける。まれに、白色のものもある。総苞（花序を包む下部にある苞の集まり）は幅2～4cmの球形。総苞片は直立して粘液をだして粘る。

写真の頭花の先にみえる白い粉は、雄しべの成熟期に盛んに分泌される花粉で、花を刺激するとでてくる。この後で雌しべの成熟期に入る。

種子は長さ約3mm程度で無毛。頭に長さ約1.5cm程度で羽毛状に枝分かれする綿毛がつく。

ノアズキ（マメ科ノアズキ属）

学 名： *Dunbaria villosa*

分布：本州、四国、九州



つる性の多年草。

日当たりの良い山野に生える。

全体に短い軟毛がある。

茎は針金状に長く伸びる。

葉は、互生して、3小葉からなり、小葉は長さ1～3cm程度の卵状菱形。



花は、8～9月頃に、葉の腋から総状の花序をだし、長さ1.5～1.8cmの黄色の蝶形の花をつける。旗弁（上に立ち上がる形の花弁）は、ほぼ丸い形で、左右不同（右側が大きい）。

果実は、長さ4cm程度の扁平な広線形の豆果で、短い毛が密に生えて、中に6～7個の種子が入っている。

ヒナタイノコズチ（ヒユ科イノコズチ属）

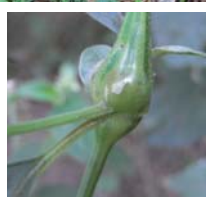
学 名： *Achyranthes bidentata* var. *tomentosa*

分布：本州、四国、九州



高さが50cm～1mになる多年草。日当たりの良い道ばたや荒地などに生える。イノコズチの和名は、膨らむ茎の節の形をイノシシの膝頭に例えたといわれる。

茎は太く、紫褐色を帯び、全体に毛が多い。葉は、互生して厚く、長さ10～15cmの倒卵形で先が尖る。



花は、8～9月頃に、茎の先に花序をだし、緑色の花を密につける（ヒカゲイノコズチよりも密）。花序の軸には白い毛が密集している。花被片は、花の後で閉じて下を向く。

果実は、針状の苞をもち、動物の体などにくっついて運ばれる。

【ヒカゲイノコズチ】



日当たりの良い場所に生えるヒナタイノコズチに対して、日陰に生える。花序の軸に下向きにびたりとつく果実は、紫褐色の針状の苞があり、ヒナタイノコズチと同様に人の衣服や動物の体毛にくっついて運ばれる。

ヒヨドリバナ（キク科フジバカマ属）

学 名：*Eupatorium chinense*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



高さが1～2mになる多年草。山野にふつうに生える。秋の七草のフジバカマに似るが、フジバカマの葉は3裂するのに対して本種は裂けないので区別できる。



茎には縮れた毛があり、ざらつく。葉は、対生して、長さ10～18cmの卵状の長楕円形か楕円形で、鋭い鋸歯がある。両面に縮れた短毛が散生し、つやはなく、裏面に腺点（蜜、油、粘液などを分泌または貯めておく小さな点）がある。香りはない。

花は、8～10月頃、上部の枝先に多数の頭花をだし、5個程度の筒状の花をつける。花は白色（まれに帯紫色）。雌しべの軸は2裂して伸びる。

種子は、長さ3mm程度で、頭に長さ約4mm程度の綿毛がつく。

フキ（キク科フキ属）

学 名：*Petasites japonicus*

分布：本州、四国、九州、沖縄



地下茎を伸ばして増え、叢生した葉柄が高さ60cm程度になる多年草。

山野にふつうに生える。

フキノトウ（若い花茎）や太い葉柄は食用される。

葉は、花が咲いた後に地下茎から葉柄が伸びて、幅15～30cmの大きな腎円形で、基部は深い心形。はじめは両面に縮れた短毛があるが、のちに無毛となる。

花は、3～5月頃に、葉に先がけて花茎を伸ばし、散房状に頭花をつける。雌雄異株で、雄株は高さ10～20cmになり、黄白色の頭花を多数つける。雌株ははじめ密に頭花をつけるが、のちに45cmほどに伸びる。

種子は、長さ約3.5mmで、頭に長さ約1.2cmの長い綿毛がある。

【アキタブキ】



本州北部以北に分布するフキの変種で、全体的に大きく、人の背丈よりも大きくなる。葉が直径1.5m、葉柄が長さ2mにまで達する。フキノトウも大きい。

フタバムグラ（アカネ科フタバムグラ属）

学 名：*Hedyotis diffusa*

分布：本州、四国、九州、沖縄



高さが 10 ～ 20cm になる 1 年草。
日当たりの良い畑などに生える。

茎は細い円柱形で、基部から枝分かれして斜上するが、横に広がる。無毛。

葉は、対生して、長さ 1 ～ 1.5cm、幅 1.5 ～ 3mm の線形～広線形で、縁に短毛があり、ざらつく。葉の基部の托葉は、膜質で先が数裂する。



8 ～ 9 月頃に、葉のわきに長さが 2 mm 程度の筒状で先が 4 裂する花を、1 ～ 2 個つける。紅色を帯びた白色。花柄はごく短い。



果実は、直径 3 ～ 5mm 程度の球形で、萼が残って目立つ。成熟すると中心付近から上下に裂けて、暗灰褐色の種子が落ちる。

和名のフタバムグラは、ヤエムグラに似ていて、葉が 2 枚ずつ対生していることからといわれる。

ヘクソカズラ（アカネ科ヘクソカズラ属）

学 名：*Paederia scandens*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



つる性の多年草。

日当たりの良い藪や草地などにふつうに生える。全体に悪臭があるので、ヘクソカズラと呼ばれる。茎は左巻きで、まわりの木や草にからまって伸びる。基部は木質化する。

葉は対生して、長さ 4 ～ 10cm、幅 1 ～ 7cm の楕円形または細長い卵形で先が尖る。葉柄の基部には左右の托葉が合わさった三角形の鱗片がある。



花は、8 ～ 9 月頃に、葉のわきから短い花序をだし、灰白色の花をまばらにつける。花冠は鐘状で、先は浅く 5 裂して平開する。内側は紅紫色。



果実は、核果（木質の堅い核の中に 1 つの種子を含む）で、直径約 5 mm の球形。熟すと黄褐色になる。中には 2 個の核がある。果実はしもやけの薬になる。

ミツバツチグリ（バラ科キジムシロ属）

学 名：*Potentilla freyniana*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



花は、4～5月頃、直径1.5～2cmの黄色の5弁花をつける。花床は有毛。

果実は、褐色を帯びた白色のそう果。

高さが15～30cmになる多年草。山野の日当たりの良い場所に生える。地下で肥大した根茎から、やや短い匍枝をだす。葉は、3小葉からなり、長楕円形～卵形で鈍頭、縁に鋸歯がある。両面に伏毛がある。



メドハギ（マメ科ハギ属）

学 名：*Lespedeza juncea* var. *subsessilis*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



花は、8～10月頃に、葉腋に2～4個集まってつき、花弁は長さ7ミリ程度の黄白色で、旗弁の中央に紅紫色の斑点がある。



果実は、豆果で、扁平な円形または広楕円形。短毛が散生し、中には種子が1個入っている。熟しても裂けないのは、ハギ属の特徴。

高さが60cm～1mになる多年草。日当たりの良い草地にふつうに生える。のり面緑化に多用されている。茎は立ち上がり、よく枝分かれます。やや木質化して、伏毛がある。葉は、密に互生した3小葉からなり、小葉の長さは1～2.5cm、幅2～4mmのくさび形～倒披心形。裏面には伏毛がある。

メヒシバ（イネ科メヒシバ属）

学 名：*Digitaria ciliaris*

分布：北海道、本州、四国、九州



花は、7～11月頃、茎の先に5～15cm程度の花序の枝を、3～8本、放射状に広げてだし、淡緑色または紫色の小穂が密生する。小穂は、長さ3mm程度の披針形で先が尖る。種子は、長さ2mm程度の狭線状の長楕円形。

高さが30～90cmになる1年草。道ばたや空き地などにふつうに生える。和名は「雌日芝」で、「雄日芝」（オヒシバ）に対比して弱々しい感じがすることからといわれる。茎は地を這い、分岐して、節から根をだす。葉は、長さ8～20cm、幅0.5～1.5cmの広線形で、薄くてやわらかい。葉鞘には、ふつう長毛が散生している。

【オヒシバ】



メヒシバに比べ、穂が太く、全体的にたくましい。花序はメヒシバよりも明らかに太く、小穂が2列に密につく。

ヨモギ（キク科ヨモギ属）

学 名：*Artemisia princeps*

分布：本州、四国、九州、沖縄、小笠原



花は、9～10月頃に、茎の先に大型の円錐形の花序をつくり、小さな頭花を下向きに多数つける。頭花は直径約1.5mm、長さ約3mmの長楕円状鐘形。

種子は、長さ2mm程度の線状長楕円形。

高さが50cm～1.2m程度になる多年草。山野にふつうに生える。地下茎を伸ばして増えるので群生することが多い。別名のモチグサは、若葉で草餅をつくることによる。また、葉裏の綿毛からは、お灸のモグサをつくる。のり面緑化に多用されている。

茎は叢生し、よく分枝する。葉は、楕円形で長さ6～12cm、幅4～8cmで羽状に深裂する。裂片は2～4対で、縁には鋸歯がある。裏面は綿毛で覆われている。



Ⅱ. 草本植物（外来種）

アメリカセンダングサ（キク科センダングサ属）

学 名：*Bidens frondosa*

分布：北アメリカ原産



花は、9～10月頃、枝の上部に黄色の頭花をつける。頭花は直径1～2cmで、小さい舌状花がある。頭花を囲む苞が葉のように見えて、6～12個を放射状につけるが特徴的。



種子は、扁平したクサビ状で、長さ6～7mm程度、黒褐色。先端に下向きの刺がある芒状の冠毛が2個つきだしている。下向きの刺で野生動物や人の衣服にひっつく。

【コセンダングサ（外来種）】



高さ50cm～1.2m程度。黄色い頭花は、筒状花だけで、舌状花はない。種子は線形。

【シロノセンダングサ（外来種）】



コセンダングサの変種。コセンダングサに似ているが、頭花には白色の舌状花が4～7個、目立ってつく。

高さが50cm～1.5mになる1年草。道ばた等の荒れ地にふつうに生える。

茎は、4稜で角張り、暗褐色を帯びて直立する。

葉は、対生して、羽状複葉で、小葉は3または5個、長い柄があり長さ5～15cmの卵状の披針形、先端が尖る。縁に粗い鋸歯がある。



アレチヌスビトハギ（マメ科ヌスビトハギ属）

学 名：*Desmodium paniculatum*

分布：北アメリカ原産



花は、7～9月頃に、紅紫色で長さ6～8mm程度の、蝶形の花をつける。丸くて大きな旗弁が目立つ。夕方にしぼむ。



果実は、扁平な豆果で、4～6節に分かれる（小節果）。小節果は、長さ約7mmで、三角形をしており、中に1つの種子が入っている。

全体に細かいカギ状の毛が密生していて、人の衣服などにひっつく。

高さが50cm～1mになる多年草。日当たりのよい荒れ地や道ばたに生える。

茎は、直立あるいは斜上する。開出毛が多い。

葉は、3小葉からなり、小葉は長さ5～8cm、幅2～4cmで狭卵形～卵形であるが、個体により差がある。両面に伏毛がある。



オオアレチノギク（キク科イズハハコ属）

学 名：*Conyza sumatrensis*

分布：南アメリカ原産



高さが80cm～1.8mになる大型の越年草。根生葉をつくって冬を越す。道ばたや空き地などに生える。



花は、7～10月頃に、茎の上部に小さな頭花を円錐状に多数つける。頭花は長さ4～5mm程度で、舌状花は舌状部が小さくて（花柱よりも短い）、苞に隠れて目立たない。



種子は、長さ約1.5mmのやや扁平な円柱形、頭に綿毛があり長さ約4mm。

茎は、直立して、上方で分岐する。開出毛が密生する。横枝が高く伸び出す性質はない。葉は、長さ8～15cmの狭楕円形～線状倒披針形で、両面に短毛が多い。鋸歯は片側に4～8個とまばら。茎や葉は灰色がかった緑色。

【アレチノギク（外来種）】

茎の高さが30～50cmで、茎より高く伸びる枝をだすところが、オオアレチノギクと異なる特徴。オオアレチノギクに比べて、頭花が大きい。

シロツメクサ（マメ科シャジクソウ属）

学 名：*Trifolium repens*

分布：ヨーロッパ原産



匍匐した茎の多くの節から発根しながら、長さ2m程度に伸び、マット状に広がる多年草。市街地や耕作地、道ばた、荒地等にごくふつうに生える。

葉は、3小葉（まれに4小葉）で、長さ5～15cmの葉柄がある。小葉は長さ1～2.5cm、幅0.8～1.8mmで広倒卵形。縁には細かい鋸歯があり、先端がやや凹む。表面に斑紋があるものが多い。



花は、5～8月頃に、葉腋から葉柄よりやや長い花茎をだし、長さ1cm程度の球形に、白色の蝶形花を多数つける。受粉が終わると外側から下向きに垂れる。

果実は、豆果で垂れ下がり、長楕円形～広線形で長さ3～5mm。

【ムラサキツメクサ（外来種）】



茎が直立または斜上して、高さ30～60cm程度になる。開出した褐色の軟毛がある。葉は、先の尖った3小葉で、細かい鋸歯がある。花は、紅紫色（まれに白色）で、長さ1.3～1.5cmで、シロツメクサよりもやや大きめ。花は受粉しても下を向かない。

セイタカアワダチソウ（キク科アキノキリンソウ属）

学 名：*Solidago altissima*

分布：北アメリカ原産



高さが 2.5m に達する大型の多年草。

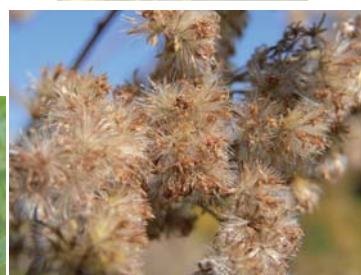
道ばたや空き地、河川敷等に生え、長い地下茎で盛んに栄養繁殖して、大群落をつくる。

茎は直立する。茎と葉に短毛が密生し、ざらつく。

葉は、長さ 6～13cm の披針形で先が尖る。縁には低く不揃いの鋸歯があり、やや密に互生する。



花は、10～11月頃、茎の上部に多数の枝をだし、長さ 10～50cm の大型の円錐状の花序をつけ、直径 5mm 程度の黄色い頭状花を多数咲かせる。筒状花、舌状花ともに黄色。筒状花は両性で、舌状花は雌性。



種子は、稜のある円柱形で、長さ約 1mm。綿毛がつき、汚白色で長さ 3～3.5mm。

セイタカアワダチソウはアレロパシーを有しており、根から周囲の植物の成長を抑制する化学物質を出すことが知られている。この物質は自身の成長も抑制する。

ヒメジョオン（キク科ムカシヨモギ属）

学 名：*Erigeron annuus*

分布：北アメリカ原産



高さが 30cm～1.5m になる 1～2 年草。市街地から耕作地までいたるところに生える。

茎は直立して、上部で分岐する。まばらな開出粗毛がある。茎の断面は中実。葉は、下部では卵形で長い葉柄があり、粗い鋸歯がある。上部では披針形で尖り基部は次第に細くなり、茎は抱かない。冬を根生葉で越し、花の時期には枯れる。



花は、6～10月頃に、枝の上部に直径 2cm 程度の頭花を多数つける。舌状花は白色で、ふつう 100 枚程度ある。筒状花は黄色。

種子は、長さ約 0.8mm の長楕円形で、長い綿毛がある。

【ハルジオン（外来種）】



ヒメジョオンと比べると丈がやや低く、茎の断面が中空である。花期は早く、5～7月。花序は、つぼみの時には茎とともにうなだれる。舌状花は糸状で数が多く、色も淡紅色から白色のものまである。

ヒメムカシヨモギ（キク科イズハハコ属）

学 名：*Conyza canadensis*

分布：北アメリカ原産



花は、8～10月頃に、茎の上部に小さな頭花を円錐状に多数つける。頭花は直径約3mmで、中央の筒状花は黄色で10～15個、まわりの舌状花は白色で30～80個。

種子は、長さ約1mmでやや扁平な円柱形、頭に綿毛があり、淡褐色で長さ約2.5mm。

高さが1～2m程度になる越年草または1年草。道ばたや荒地に生える。

茎は、直立して上部で分岐する。開出毛がある。

根生葉はへら形で、夏から秋に発生し、ロゼット（根生葉が放射状に密につく）を形成して越冬するものが多い。

茎の葉は、長さ7～10cm、幅0.5～1.5cmの線形で、茎を取り巻くように密に互生する。縁にはまばらに鋸歯があるか全縁。両面とも粗毛があり、縁にまばらな長毛がある。

よく似た、オオアレチノギクは、茎の開出毛がヒメムカシヨモギよりも密で、舌状花は花弁が目立たずに、花柱よりも短い。

ブタクサ（キク科ブタクサ属）

学 名：*Ambrosia artemisiifolia* var. *elatior*

分布：北アメリカ原産



花は、7～10月頃に、枝の先に細長い花序をだして雄頭花をつける。雄頭花は、約2～3mmの黄色い小花が複数集まった房となる。雌頭花は雄花序の下の葉腋に2～3個つけ、目立たない。

苞がかたく成長した果実は、長さ3～5mm、長卵形で先が尖る。

高さが30cm～1mになる1年草。やや乾いた空き地や道ばたに生える。

夏から秋にかけての花粉症の原因になっている。

茎は直立して、単一または枝分かれする。軟毛がある。

葉は、下部で対生して長い柄があり、上部で互生してほとんど柄がない。葉身はやわらかく、ほぼ三角状卵形で長さ6～12cm、2回羽状に深裂する。

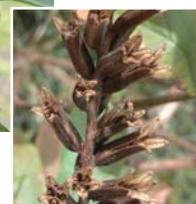
メマツヨイグサ（アカバナ科マツヨイグサ属）

学 名：*Oenothera biennis*

分布：北アメリカ原産



花は、6～9月頃、茎の上部の葉のわきに直径2～5cmの黄色の4弁花をつける。花びらの隙間がない。夕暮れに開花し、夜咲くが日中でも残る。花はしばむとやや橙色を帯びるが、マツヨイグサのように赤色にはならない。



高さが50cm～1.5mになる2年草。道ばたや荒地、河原などに生える。マツヨイグサの仲間では最も多い。

茎は直立し、下部からよく分枝する。上向きの毛が生える。根生葉は先が尖り、葉の中央脈はしばしば赤味を帯びる。冬を根生葉で越す。茎の葉は互生して、長さ5～22cmの倒披針形で先端は尖る。縁には浅い鋸歯がある。葉はしばしばウィルスにかかり、斑点がつく。

果実は上向きの毛があり、は、長さ2～4cmの円柱形で内部が4室あり、種子は各室に2列つき、長さ1.1～2mm。

メリケンカルカヤ（イネ科ウシクサ属）

学 名：*Andropogon virginicus*

分布：北アメリカ原産



高さが50cm～1mになる多年草。日当たりのよい道ばたや草地に生える。茎は叢生して直立、基部はやや扁平している。葉鞘上部以外は無毛。葉は、長さ3～20cm、幅3～6mmの線形。秋には赤褐色を帯び、冬には枯れるが春まで枯れ草のまま立つ。



花は、9～11月頃、葉のわきに、葉身が退化した葉鞘に包まれた花序をだし、2～4個の枝を散形状につける。花序の枝には長く白い毛があり、節に小穂を2個ずつつける。1個のみ結実し、2cm程度の芒をつける。



種子をつくる小穂の基部には、長さ8mm程度の白い綿毛が多数ついて、風で飛散する

ヨウシュヤマゴボウ（ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属）

学 名：*Phytolacca americana*

分布：北アメリカ原産



花は、6～9月頃に、葉腋に長さ15cm程度の花序をだし、直径5mm程度の白色でわずかに紅色を帯びる花弁のない花を穂状につける。花序には長い柄がある。花弁に見えるのは萼で、ふつう5片ある。果実は、紅紫色の汁を多量に含み、偏球形で直径約8mm、熟すと光沢のある黒紫色となり、下垂する。

高さが1～2m程度になる大型の多年草。空き地や道ばたにふつうに生える。

全体が無毛で、ふつう茎や葉は赤紫色を帯びる。

粗大な根株から中空の茎をだして、中部以上でよく分枝する。

葉は互生して、長さ10～30cmの長楕円形で、先が尖る。全縁で短い柄がある。



ワルナスビ（ナス科ナス属）

学 名：*Solanum carolinense*

分布：北アメリカ原産



花は、6～10月頃に、節間に花序をだし、先端に直径2～3cmの白色あるいは淡紫色で浅く5裂した星形の花を、5～15個、集散状につける。

果実は、多肉質で直径約1.5cmの球形。若い実は縞模様があるが、熟すと縞模様が消えて黄色になる。中に多数の種子をもつ。

高さが50cm～1m程度になる多年草。荒地や道ばたに群生して生える。

根茎を長く伸ばし、そこから茎を直立して分枝し斜上する。節毎にくの字形に曲がる。

茎や葉には微毛が密生し、鋭い刺がある。

葉は互生して、長さ8～15cm、幅4～8cmの長楕円形で、縁には波状の大きな鋸歯が2～4個あり、先端が尖る。



Ⅲ. 木本植物（在来種）

アカマツ（マツ科マツ属）

学 名：*Pinus densiflora*

分布：北海道（南部）、本州、四国、九州（屋久島まで）



常緑高木で、樹高約 30m に達する。ブナ帯以下の山地に生育し、尾根筋や岩山などの乾燥したやせ地にもよく育つ。

樹皮は赤褐色で亀甲状に薄くはがれ、老木では赤灰色となり深い割れ目が生じる。



葉は、短枝に 2 本束生し、長さ 7～12cm、幅 1mm 程度の針形で、それほどかたくない。

花は雄花と雌花があり、4～5 月頃に、雄花は 10～15mm の楕円形で新枝の基部に多数つき、縦裂して花粉を出す。雌花は約 5mm の球形で赤紫色、新枝の頭頂部に 2～3 個つき、多数の鱗片からなる。

球果（毬果、松ぼっくり）は長さ 4～5cm の卵形、翌年秋に成熟して、木質化したかたいクサビ状の鱗片を開いて内側に 2 個ついている大きな翼のついた種子を飛ばす。

アカメガシワ（トウダイグサ科アカメガシワ属）

学 名：*Mallotus japonicus*

分布：本州（宮城県・秋田県以西）・四国・九州・沖縄



落葉高木で、高さ 15m に達する。暖地の平野や山野にふつうに生える。

樹皮は灰褐色で、縦に浅い割れ目がある。雌雄異株。

若い葉や枝、芽に星状毛（放射状に分岐している毛）が多い。芽はむき出しの裸芽。葉柄は長く赤い。

子葉は厚みがあり 15mm 程の楕円形。



葉は単葉で長い柄があり、互生する。葉柄は赤みの強い褐色で、長さ 5～20cm。葉身は倒卵状円形～広卵形で、先は尖形。鋸歯はなく、ときに浅く 3 裂する。葉の両面に星状毛が密に生え、裏面は黄褐色の小さな腺点が密生する。



雌花



雄花



果実は蒴果で、9～10 月頃に褐色に熟すと 3～4 裂する。種子は直径約 4mm 程度の黒光りする扁球形。大量の種子が鳥に被食されて、散布される。

アケビ（アケビ科アケビ属）

学 名：*Akebia quinata*

分布：本州、四国、九州



花は雄花と雌花があり、4～5月頃に、葉の間から散房状の花序をだし、下垂して先端に淡紫色の雄花を数個、基部側に紅紫色の雌花を1～3個つける。

果実は、長さ5～10cm程度の楕円形で、秋に熟すと紫色を帯びて、裂開する。白い果肉は、甘く食べられる。種子は果肉に包まれ黒褐色でつやがある。

落葉性のつる性木本。
山野にふつうに生える。
つるは右巻きで、樹皮は暗褐色の無毛。

葉は互生して、掌状の複葉で小葉は5枚、葉柄が3～10cmと長く、小葉は長さ3～6cm、幅1～2cmの長楕円状の倒卵形。先端は少しくぼみ、基部はくさび形ないし円形。縁は鋸歯がなく全縁。

【ミツバアケビ】

落葉性であるが、葉はときに越冬する。つるは右巻き。葉は互生して、小葉が3枚、縁には少数の大きな波状の鋸歯があり、アケビと見分けられる。果実は、アケビ同様に食用となる。



果肉の中に、多数の黒褐色でつやのある種子がある。



イタヤカエデ（カエデ科カエデ属）

学 名：*Acer mono* var. *marmoratum* f. *dissectum*

分布：北海道、本州、四国、九州



落葉高木で、高さ15～20mに達する。日当たりのよい山地、谷間の斜面に生える。

樹皮は暗灰色で、すじ状の裂け目が入り、老木ではすじがはっきりする。葉は対生して、直径6～14cmの扁円形で、掌状に5～7中裂または浅裂する。裂片の先は、尾状に尖る。表面は光沢があって、ほとんど無毛。縁は全縁、4～12cmの長い柄がある。



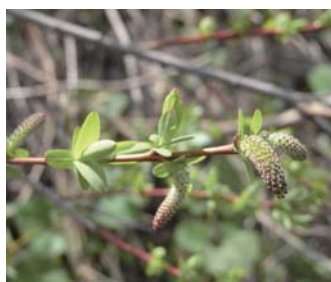
花は雄花と雌花があり、4～5月頃に、黄緑色の小さな花を新枝の先に円錐状に集まってつける。同じ花序に雄花と両生花が混生する。雄花だけつく花序もある。

果実は翼果（果皮の一部が伸びて翼状になったもの）で、2個1組の分果（複数の部分に分離して散布される果実）、1個は長さ2～3cm。種子の部分で結合して、翼は2つが鋭角に開く。熟すと分離して、風に乗って遠くまで運ばれる。

イヌコリヤナギ（ヤナギ科ヤナギ属）

学 名： *Salix integra*

分布：北海道、本州、四国、九州



葉は、主に対生で互生も混じる。長さ4～10cm、幅1.3～2cmの長楕円形で、先が鈍い円頭形で基部は円形、縁に低く細い鋸歯がある。両面とも無毛で、表面は明るい緑色、裏面は淡緑色。葉柄はほとんどない。

花は、3月頃に、柄がない細い円柱状の花序をつける。雄花序は長さ2～3cm。雌花序は長さ1.5～2.5cmで、子房に長く白い毛が密生する。

落葉低木で、高さはふつう1.5m程に達し、株立ちする。川岸などにふつうにみられるヤナギで、乾燥した場所にも生える。雌雄異株。

樹皮は暗褐色で平滑、新枝は黄褐色で細く、密集してまっすぐに伸びる。

果実は、5月に成熟して開裂し、綿毛に包まれた小さな種をだす。

イヌザンショウ（ミカン科サンショウ属）

学 名： *Zanthoxylum schinifolium*

分布：本州、四国、九州



花は、7～8月頃に、枝先に散状の花序をだし、黄緑色の小さな花を多数つける。

果実は淡緑色で、3個の分果からなり、長さ4～5mmの楕円状の球形。秋に熟して、黒色で艶がある。



落葉低木で、高さ1.5～3mに達する。林縁部や道ばた等に生える。雌雄異株。樹皮は灰緑色で、枝には下部が縦に平たく広がる刺が互生してつく。

葉は互生して、長さ7～20cmの奇数羽状複葉で、小葉は13～23枚あり、長さ1.5～5cm程度の披針形か長楕円形。葉軸にごく狭い翼がある。縁には細かく鈍い鋸歯があり、先端はしだいに細く尖る。

【サンショウ】



イヌザンショウと姿が似ているが、刺が対生していることで区別できる。イヌザンショウよりも葉や果実の香りが強い。果実は、熟すと紅色になる。料理に使用される。

ウツギ（ユキノシタ科ウツギ属）

学 名：*Deutzia crenata*

分布：北海道、本州、四国、九州



落葉低木で、高さ 1～3m になる。株立ちでよく分枝する。

日当たりのよい山野や林縁部によく生える。

樹皮は灰褐色で、短冊状に剥がれる。枝には随があるが、中空になる。若枝は赤褐色を帯び、星状毛がある。葉は対生して、長さ 4～9cm の楕円形～卵状披針形、先は尖る。縁には微細な鋸歯がある。質はやや厚く、表面は星状毛がありざらつく。葉の裏面や葉柄にも星状毛が密生する。



花は両性花で、5～7 月頃に、枝先に幅の狭い円錐状の花序をだし、鐘状で白色のたくさんの花を下向きにつける。直径 1cm 程度で、花弁は 5 枚あり平開しない。



果実は、直径 4～6mm の木質の椀状、先端はややくぼむ。花柱が残って目立つ。10～11 月頃に熟し、3～4 裂する。種子は、褐色の長さ約 2.5mm の長楕円形で、一端には膜状の翼がある。



ウリカエデ（カエデ科カエデ属）

学 名：*Acer crataegifolium*

分布：本州（福島県以南）、四国、九州



落葉小高木で、高さ 6～8m に達する。雌雄異株。山地や林縁部、尾根筋などで明るい場所に生える。



ウリハダカエデの樹皮



樹皮は、緑色と黒色の縞模様となりなめらかで、マクワウリの果皮に似ている（名前の由来）。ウリハダカエデの樹皮（菱形に裂ける皮目が特徴的）に似ているが、ウリカエデは皮目（樹皮の空気口）が小さくて目立たない

葉は対生して、長さ 4～8cm の卵状～長卵状、浅く 3 裂あるいは 5 裂するものがある。先は尾状に伸び、縁には不揃いの重鋸歯（鋸歯が複数に重なる）がある。

花は、4～5 月頃に、先が垂れる長さ 3～5cm の総状の花序をだし、淡黄色の花を 10 個程度つける。

果実は無毛の翼果で、2 個 1 組の分果は長さ約 2cm で赤味を帯び、翼は水平に開く。6～10 月頃に熟す。種子の部分は平たく、あまり膨らまない。

エゴノキ (エゴノキ科エゴノキ属)

学 名: *Styrax japonica*

分布: 北海道 (日高地方)、本州、四国、九州、沖縄



落葉小高木で、高さ 7～8m に達する。山麓の雑木林や、山の谷間にふつうに生える。樹皮は黒っぽくてなめらか、縦に浅い裂け目が入り、老木になるにつれて凹凸が目立つようになる。芽は裸芽、星状毛が密生する。葉は互生して、長さ 4～8cm の卵形～狭長楕円状卵形で、先端が尖り、基部はクサビ状、縁に低い鋸歯があるか、全縁。葉の裏と葉柄には、はじめ星状毛がある。葉柄は、長さ 3～7mm。秋には黄葉する。



花は両性花で、5～6月頃に、新枝の先に 1～6 個の垂れ下がった白い花をつける。萼は鐘形、花冠は直径約 2.5cm で 5 深裂して、外面に星状毛がある。中央の雄しべは 10 個ある、雌しべは雄しべより少し長い。

果実は、長さ 1cm 程度の卵円形で灰白色。表面には星状毛がある。8～9月頃に熟すと、果皮が乾燥して縦に割れ、コーヒー豆のような褐色の種子が 1 個でて、落ちる。

果皮には、エゴサポニンを多く含み有毒 (溶血作用、胃腸障害)。ヤマガラが種子の中身を好んで食べ、地面にも埋めて貯蔵する。



エビヅル (ブドウ科ブドウ属)

学 名: *Vitis thunbergii*

分布: 本州、四国、九州、沖縄



落葉性のつる性木本。雌雄異株。丘陵地や山地にふつうに生える。

枝には、葉柄とともにはじめクモ毛がある。葉と対生する巻きひげで他の植物に絡みつく。葉は互生して、長さ 5～8cm の卵状～広卵状三角形で、3～5 深裂するが、切れ込みの変化が大きい。表面ははじめクモ毛があるがのちに無くなり、裏面は淡褐色か白色のクモ毛が秋まで残る。



花は、6～8月頃に、葉と対生した長さ 6～12cm の総状の円錐状の花序をだし、黄緑色の小さな花を密につける。花弁は開花すると落ちる。

果実は多肉質で、直径約 6mm 程度の球形で房状につき、黒く熟し、食べられる。種子は、暗赤褐色で長さ 4mm 程度である。



オオバヤシャブシ（カバノキ科ハンノキ属）

学 名：*Alnus sieboldiana*

分布：本州（福島県南部～和歌山県の太平洋側）、伊豆諸島



落葉小高木で、高さ 5～10m に達する。海岸沿いの山地や丘陵地、やせ地や崩壊地などに生える。

樹皮は、平滑でくすんだ灰色、丸い皮目がちらばるが老木になると不規則な割れ目が入る。葉は互生して、長さ 6～12cm の卵形～長卵形で、先端は鋭く尖る。縁には重鋸歯がある。基部は円形で左右の形がわずかに異なる。葉脈は直線上に並行して並んで斜上する。紅葉は黄褐色。



花は雄花と雌花があり、3～4月頃に、葉と同時に開く。無柄の雄花序は長さ 4～5cm で、前年の葉腋に 1 個ずつでて、湾曲して下垂する。雌花序は、長さ 1～2cm の柄があり、雄花序より上部の側芽に 1 個でる。

小さな果実が集まった果穂は、長さ 2～2.5cm の楕円形。10～11月に成熟して松かさ状に開き、長さ 4.5mm 程度の翼のある扁平な種子をだす。果穂は種子が落ちた後に残る。

本州の太平洋側に多いヤシャブシとともに、のり面緑化で、主要な樹種として多く使用される。

オノエヤナギ（ヤナギ科ヤナギ属）

学 名：*Salix sachalinensis*

分布：北海道、本州、四国



落葉高木で、高さ 15m に達する。雌雄異株。日当たりのよい谷間や河原などに生える。繁殖力が強く、大きな群落をつくることもある。

樹皮は暗灰色で縦に浅く割れる。

葉は互生して、長さ 10～15cm、幅 1～2cm の披針形～線形で、先端は細長くとがる。基部は鋭形ないし鈍形で、縁には波状の鋸歯がある。葉の表面は暗緑色で光沢があり無毛、裏面は淡緑色または粉白色を帯び、無毛か短毛がある。紅葉は黄色。



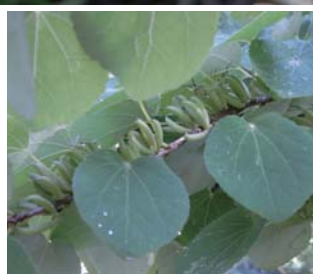
花は、6～10月頃に、展葉前に開花する。日の当たる側の花が早く展開するので、花序がしばしば湾曲する。雌雄花序ともに長さ 2～4cm の円柱形、雄花序はやや太い。雄花は黄色の葯が目立つ。先端は紅色を帯びる。基部に両面に白い長軟毛のある苞がある。

果実は、5～6月頃に成熟して裂開し、白い綿毛に包まれた種子をだす。種子は風で運ばれる。

カツラ（カツラ科カツラ属）

学 名： *Cercidiphyllum japonicum*

分布：北海道、本州、四国、九州



花は、3～5月頃に、雌雄ともに短枝の先に花被を持たない花を多数つける。雄花の葯は紅紫色で花糸にぶらさがり、雌花は紅紫色の柱頭をしている。開花の時期には紅く染まり、美しい。

果実は、バナナのような形をした袋果を形成し、袋果1個あたり20個前後の種子を含む。種子は翼を含めて長さ6mmと小型で、秋には大量の種子を風で飛ばす。

落葉高木で、大きなものは樹高が30mに達する。冷温帯の溪畔域や攪乱した跡地に散在する。雌雄異株。幹は直立し、樹冠は円錐形となる。成長するとほとんどの個体が萌芽を形成し、巨大な株となり、壮大である。樹皮は、縦に浅い割れ目が入る。枝は短枝と長枝がある。葉は対生して、ハート型で縁には波形の鋸歯がある。葉柄は紅色を帯びる。新芽は赤紫色。

カラスザンショウ（ミカン科サンショウ属）

学 名： *Zanthoxylum ailanthoides*

分布：本州、四国、九州



葉は互生して、長さ30～80cmの奇数羽状複葉で、11～21枚のやや対生する小葉からなる。小葉は、長さ7～15cmの披針形で、先は尾状に長く尖る。両面とも無毛。裏面は粉白色で全体に油点細胞間隙または細胞内に油滴がたまったもので、半透明の小さな点がある。

花は、7～8月頃に、枝先に長さ13～20cmの散房花序をだして、緑白色の花を密生する。花弁は5枚。

果実は、3個の分果からなり、11～1月に熟して裂開し、種子を1個だす。

種子は、黒色でつやがある楕円状の球形で、直径約4mm。

落葉高木で、通常は6～8m程度であるが、15mに達する大きなものもある。雌雄異株。崩壊地、伐採跡地等で初期に侵入するほか、山野にふつうに生える。樹皮は灰褐色で、若い幹や枝に鋭い刺が多数ある。成木になるとなくなり、横長のコブとなる。

キヅタ（ウコギ科キヅタ属）

学 名：*Hedera rhombea*

分布：本州、四国、九州



常緑性のつる性木本。茎から気根をだして、樹木の幹や岩などに吸着してよじ登る。照葉樹林などの林内や林縁部、原野に生える。



樹皮は灰色で皮目がある。葉は互生して、長さ3～7cmの卵円形または菱形状卵形で、掌状に浅く3～5裂するが、花序のつく枝の葉は分裂しない。両面無毛で縁は全縁。革質で表面は強い光沢がある。



花は両性花で、10～12月頃に、枝先に直径3mm程度の球形の散形花序をだし、小さな黄緑色の花をたくさんつける。花弁は5枚、雄しべは5本。



果実は多肉質で、直径8～10mmの球形で先端に花柱が残り、はじめは赤紫褐色、翌年5～6月に熟して、紫黒色となる。中には直径5mm程度の5個の種子がある。

キブシ（キブシ科キブシ属）

学 名：*Stachyurus praecox*

分布：北海道（西南部）、本州、四国、九州



落葉低木または小高木で、高さ2～4mに達する。雑木林や林縁、道ばたなどの湿り気のある日陰に生える。雌雄異株。

樹皮は、赤褐色または暗褐色で丸い皮目が散在する。葉は互生して、長さ6～2cm程度の長楕円～卵形で、先が尖る。縁には鋸歯があり、長さ1～3cmの赤味を帯びた葉柄がある。表面はやや光沢があり、裏面は淡い緑色で両面ともに無毛。



花は、3～4月頃の葉の展開前に、前年枝の葉腋から長さ3～10cmの総状花序を下垂させる。花序は雄花が長く、雌花が短い。

雄花は淡黄色で、長さ6～9mmの鐘形。雌花は淡黄緑色。



果実は、堅く乾いた多肉質で、直径7～12mmの楕円状の球形。はじめ緑色で、7～10月に熟すと黄褐色となる。種子は、長さ2mmの倒三角形。



葉の形や大きさ、果実の大きさに大きな地域の変異がある。

クサギ (クマツヅラ科クサギ属)

学 名: *Clerodendrum trichotomum*

分布: 北海道、本州、四国、九州、沖縄



花は両性花で、7～9月頃に、枝先や上部の葉腋から散状花序をだし、花冠は5裂する。平開する5枚の裂片は広線形で白色。花筒は紅紫色で長さ2～2.5cm。萼は紅紫色を帯びて5浅裂し、結実のころには濃紅色となり星状に開いて、中央に果実をのせる。

果実は、直径6～7mmの球形、10～11月頃に熟すと、光沢のある藍色となる。

1個の果実に、4個の核があり、灰褐色で表面に網目状の隆起した模様がある倒卵形。

落葉小高木で、高さ4～8mに達する。日当たりのよい山野の林縁部などに生える。枝や葉をちぎると強い臭気があり、和名の「臭木」の由来とされている。

樹皮は、灰色～暗灰色で皮目が多い。若い枝には、軟毛がある。裸芽。

葉は対生して、長さ8～15センチの三角状の心形～広卵形で、縁はほぼ全縁。相対の葉は左右で大きさや葉柄の長さが異なる。両面ともに有毛。

ケヤマハンノキ (カバノキ科ハンノキ属)

学 名: *Alnus hirsuta*

分布: 北海道、本州、四国、九州



花は雄花と雌花があり、4月頃の展葉前に開花する。雄花序は長さ7～9cmで柄があり、枝先に2～4個垂れ下がってつく。雌花序は雄花序の下方に下向きにつく。

果実は、長さ1.5～2.5cmの楕円形。成熟すると裂開し、長さ3～3.5mmの扁平な種子をだす。種子の両側には狭い翼がある。

落葉高木で、高さ10～20mに達する。丘陵上部から山地、溪流沿いに多く生える。

樹皮は紫褐色で平滑、灰色の横長の皮目が目立つ。若枝には褐色の軟毛が密生する。

葉は互生して、長さ8～15cmの広卵形、先端は短くとがるか鈍い。葉の縁には、欠刻状の不規則な重鋸歯がある。側脈は6～8対で裏面に隆起する。表面は短毛がまばらに生え、裏面は脈上にビロード状の軟毛が密生する。毛が無いものもある。紅葉は黄色。



コナラ（ブナ科コナラ属）

学 名：*Quercus serrata*

分布：北海道、本州、四国、九州



落葉高木で、高さ 20m に達する。
明るい山野にふつうに生える。



花は雄花と雌花があり、4 月頃の葉の展開と同時に開花する。雄花序は新枝の基部に多数ついて垂れ、長さ 2 ～ 6cm で絹毛を密生。雌花序は小さくて短く、新枝の上部の葉腋に数個つく。



果実は、楕円形で長さ 2cm、幅 1cm 程度の楕円形で、当年の秋に熟す。殻斗（実の一部または全部を覆う碗状の部位）によって基部が包まれる。



樹皮は、縦に不規則ではっきりした黒い割れ目がある。割れ目の間は平滑で白っぽい。葉は互生して、長さ 5 ～ 15cm の倒卵形で、先端は鋭くとがる。縁はやや丸みを帯び、先のとがった大型の鋸歯がある。裏面は灰白色。若葉は絹毛で覆われる。紅葉は赤色、黄褐色など。

コマツナギ（マメ科コマツナギ属）

学 名：*Indigofera pseudotinctoria*

分布：本州、四国、九州



落葉小低木（草本状）で、高さ 40 ～ 80cm になる。日当たりのよい道ばたや草地などの乾いた場所に生える。



花は両性花で、7 ～ 9 月頃に、葉腋に長さ 4 ～ 10cm の総状花序をだして、花序の下から上に向かって、淡紅紫色の花を密につける。



果実は豆果で、長さ 2.5 ～ 3cm のまっすぐで細い円筒形。茶褐色に熟すと、裂開して 3 ～ 8 個の暗金色の種子を落とす。

茎は地を這うこともあるが、ふつうは立ち上がる。茎にはまばらに伏毛がある。

葉は、奇数羽状複葉で、小葉は 7 ～ 13 枚あり楕円形。両面に伏毛がまばらにある。

のり面緑化で、主要な樹種として多く使用される。



サルトリイバラ（ユリ科シオデ属）

学 名：*Smilax china*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



花は、4～5月頃の葉の展開と同じ時期に、葉腋から散状の花序をだして、淡黄緑色の花を多数つける。

果実は多肉質で、直径7～9mmの球形。秋に熟すと朱赤色になりよく目立つ。種子は、長さ5mm程度の倒卵形～楕円形。



落葉性のつる性木本。

山野の草原、林内や林縁などに生える。雌雄異株。

枝にあるカギ状の刺と葉柄の巻きひげで他の植物にからみつく。巻きひげは、葉柄の基部に1対ある。

葉は互生して、長さ3～12cmの円形～楕円形、先端が狭まって尖る。縁は全縁。革質で、表面は鈍い光沢があり、3～5個の脈は表面でへこむ。

スギ（スギ科スギ属）

学 名：*Cryptomeria japonica*

分布：本州、四国、九州（屋久島まで）



花は雄花と雌花があり、3～4月頃に、雄花は枝先に淡黄色で5～8mmの長楕円形を穂状に集まってつけ、成熟すると開いて細かな花粉を多量に飛ばす。雌花は枝先に緑色で径2～3cmの球形を1個ずつ下向きにつける。

果実は球状で、直径2cm程度、10～11月に成熟して褐色になり、先端が切れ込んだ20～30個の鱗片を開く。1つの鱗片には、長さ5～6mmの楕円形の種子が2～5個つく。種子の縁には狭い翼がある。

常緑高木で、高さ30～40m、大きいものは50mに達する。

山野の谷地形などによく生える。

日本では材木として、古くから各地で造林されている。

樹皮は赤褐色で厚く、縦裂して細長い薄片にはがれる。

葉はらせん状に配列して、長さ約1cmの鎌状針形で、基部は次第に細くなり茎に流れる。冬は赤褐色になり、春に緑色に戻る。



ソヨゴ（モチノキ科モチノキ属）

学 名：*Ilex pedunculosa*

分布：本州（新潟、茨城県以西）、四国、九州



常緑小高木で、高さ 3～7m に達する。山地の乾いた林内に生える。雌雄異株。



花は、6～7月頃に、雄花は新枝の葉腋から長さ 1～2cm の柄をだして、3～8 個の白色の小さな花を散形状につける。雌花は新枝の葉腋に長さ 2.5～4cm の柄の先にふつう 1 個つける。花は、直径約 4mm 程度で、花弁 4～5 枚。

果実は、長さ 4cm 程度の果柄の先に、直径約 8mm の球形を下垂させる。10～11 月に熟すと、赤く熟す。中には三角状卵形の核が 4 個入っている。

樹皮は、なめらかな灰褐色で、皮目が多い。葉は互生して、長さ 4～8cm の卵状楕円形で、先は尖る。縁は全縁で波打つ。裏面の側脈は不明瞭。若葉には微細な鋸歯がある。両面とも無毛。



タニウツギ（スイカズラ科タニウツギ属）

学 名：*Weigela hortensis*

分布：北海道（西部）、本州（主に日本海側）



落葉小高木で、高さ 5m 程度になる。日当たりのよい山地などに生える。

下部でよく分岐して株立ち状になる。

樹皮は、灰褐色で、縦に裂けてはげ落ちる。

葉は対生して、長さ 4～10cm の卵状楕円形で、先が尖る。縁には細かい鋸歯がある。表面ははじめ毛があるがのちに無毛となり、裏面は全面に白い軟毛があるが脈状には少なくて脈の両側に密生する特徴がある。



花は両性花で、5～6月頃に、枝先や上部の葉腋に、長さ 2.5～3.5 cm、直径 2cm 程度の漏斗状で先が 5 裂する、桃紅色の花を 2～3 個ずつつける。

果実は、長さ 1.2～1.8mm の細い円筒形。ほぼ無毛。10 月頃に熟し、先が 2 裂して、長さ 1mm 程度の楕円形で翼のある種子をだす。



タラノキ（ウコギ科タラノキ属）

学 名：*Aralia elata*

分布：北海道、本州、四国、九州



花は、8～9月頃に、幹の先端に、長さ30～50cmの大きな複数の散形花序をだし、淡い緑白色の小さな花をたくさんつける。花の大きさは、直径3mm程度で、花弁は白色で5枚、三角状卵形で先が尖る。

果実は多肉質で、直径3mm程度の球形。9～10月頃に熟して、黒色になる。種子は約2mm程度の扁平した卵状楕円形で5個ある。



落葉低木で、高さ2～5mになる。高さが10mに達するものもある。丘陵や山地の崩壊した斜面や崩壊地によく生える。若芽の「タラノメ」は食用される。

樹皮は、灰褐色で鋭い刺が多い。丸い皮目がある。

葉は互生して、長さ50～100cmの大型の2回羽状複葉が、枝先に集まってつく。小葉片は5～9個あり、小葉は長さ5～12cmの卵形～楕円形。

ツタウルシ（ウルシ科ウルシ属）

学 名：*Rhus ambigua*

分布：北海道、本州、四国、九州



落葉性のつる性木本。雌雄異株。林内などに生育する。秋に紅葉する。

つるから気根をだして樹木の幹に吸着して、はい登る。若枝には褐色の毛が密生するが、のちに無毛になる。赤褐色の皮目ができる。裸芽。

葉は互生する、3出複葉で、小葉は卵状楕円形。先は尖り、縁は全縁であるが、幼葉では粗い鋸歯がある。頂上の小葉は長さ5～15cm、横にでる2枚の小葉は長さ5～12cm。表面は無毛で、裏面の側脈基部に褐色の軟毛が密生する。葉に「ラッコール」という漆成分を含んでおり、触れると皮膚がかぶれる。

花は、5～6月頃に、葉腋から総状の花序をだし、長さ約3mmの長楕円形の黄緑色の花弁の花をたくさんつける。



果実は、直径5～6mmの扁球形。縦の筋が入り、短毛を散性する。8～9月に黄褐色に熟し、後に外側の皮が剥がれて内部の白いロウ質の皮が見える。種子は1個。

ツルアジサイ（ユキノシタ科アジサイ属）

学 名：*Hydrangea petiolaris*



落葉性のつる性木本。長さ 10 ～ 20m にも伸びる。
山地の林内に生える。

分布：北海道、本州、四国、九州

幹や枝から多数の気根をだして、樹木や岩などを這って伸びる。

樹皮は淡褐色で、古くなると紙状に縦に剥がれる。葉は対生して、新枝に 2 ～ 3 対つき、洋紙質で長さ 5 ～ 12cm の卵形。先は尖り、縁には細かく不揃いな鋸歯が多数ある。林内の地上を這う枝の葉は円形で、長さ 2cm に達しないものもあるなど、葉の大きさや形に変化が大きい。両面に脈に沿った短い毛があり、裏面の脈腋には密生する。裏面は帯白色。花は両性花で、6 ～ 7 月頃に、枝先に直径 10 ～ 18cm の花序をだし、3 ～ 4 枚の大きな萼は白色。



果実は、直径 3.5mm 程度の球形。種子は、扁平した卵形で長さ 1.5mm、縁に翼がある。

ニガイチゴ（バラ科キイチゴ属）

学 名：*Rubus microphyllus*



落葉低木で、高さ 1 ～ 2m になる。
山野の林縁や荒れ地に生える。

下部でよく分枝し、枝は細く白いロウ質の粉がつき無毛で、細い刺が多い。

葉は互生して、花のつかない枝では長さ 6 ～ 10cm の広卵形で、3 裂することが多い。切れ込まない葉もある。花のつく枝では、長さ 2 ～ 5cm と小さい。先端は尖り、縁には不揃いな鋸歯がある。両面ともに無毛であるが、裏面は粉白色を帯びて、脈状に刺がある。

分布：本州、四国、九州



花は両性花で、4 ～ 5 月頃、直径 2 ～ 2.5mm 程度の、花弁が細くて白い花を上向きにつける。

果実は集合果（花に複数の雌しべがあり、それぞれからできた果実が集まって 1 個にまとまったもの）で、多肉質、直径 1cm 程度の球形。6 ～ 7 月頃に赤く熟して食べられ、甘い。

種子は、1.3mm 程度の半円形で凹みによる網目模様がある。



ヌルデ（ウルシ科ウルシ属）

学 名：*Rhus javanica* var. *roxburghii*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



花は8～9月頃に、枝先に長さ15～30cmの円錐の花序をだし、小さな白色の花を多数つける。花序の軸には毛が密生する。



果実は、直径3～4mmの扁球形で、10～11月頃に熟すと黄赤色になり、白い物質を分泌する。種子は、黄褐色の堅い殻に包まれる。



落葉小高木で、高さ5～10mになる。雌雄異株。平地から低山地の林縁にふつうに生える。

樹皮は白っぽくて平滑、赤褐色の皮目が目立つ。

芽は黄褐色の軟毛に包まれる。

葉は互生して、長さ30～60cmの奇数羽状複葉で、小葉は3～6対ある。葉柄には軟毛があり、葉軸にはつきりした翼があるのが特徴。小葉は、長さ5～12cmの長楕円形で、先は鋭く尖る。縁には粗い鋸歯がある。表面は主脈を除いて無毛で、裏面は軟毛が密生して黄白色となる。紅葉は、赤・黄色。

ネムノキ（マメ科ネムノキ属）

学 名：*Albizia julibrissin*

分布：本州、四国、九州、沖縄



花は両性花で、6～7月頃、枝先に10～20個の花が、頭状に集まってつく。雄しべは、基部側がぼかされるような淡紅色で、細長く柔らかな絹糸状が少し開くように突きだして美しい。



果実は豆果で、長さ10～15cmの広線形が、下垂する。10～12月に褐色に熟し、裂開して10～18個の長さ5～9mmの種子をだす。

落葉高木で、高さ10mに達する。

川岸や林縁、原野に生える。

樹皮は、平滑で灰褐色、変異の多い皮目がある。

葉は互生して、長さ20～30cm、2回出の羽状偶数複葉（先端の葉は2枚）。7～12対の羽片が対生する。楕円形の羽片には、長さ1～1.7cmで狭卵状楕円形の小葉が15～30対を対生させる。裏面は粉白色。夜、暗くなると葉は垂れ下がり、相対する小葉が合わさって閉じて、眠ったように見える（就眠運動）。



ノブドウ（ブドウ科ノブドウ属）

学 名： *Ampelopsis brevipedunculata* var. *heterophylla* 分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



落葉性のつる性木本。
山野にふつうに生える。
2分岐した巻きひげで他の植物などに絡みつく。巻きひげは節から出る。
つるは長くのびてジグザグ状に曲がり、節はしばしば肥厚する。つるは毎年枯れるが、基部は木質化する。葉は互生して、長さ8～11cmで卵形、3～5裂する。先は尖り、縁は粗い鋸歯がある。葉の裏面の脈腋に毛がある。



花は両性花で、7～8月頃に、葉と対生した集散状の花序をだし、直径3～5mmの淡緑色の小さい花をたくさんつける。



果実は多肉質で、直径6～8mmの球形、淡緑色から紫色や碧色になる。虫えいがつくられることが多い。食べられない。種子は、長さ3～5mm。



ノリウツギ（ユキノシタ科アジサイ属）

学 名： *Hydrangea paniculata*

分布：北海道、本州、四国、九州



落葉小高木で、高さ2～5mになる。
日当たりのよい山地にふつうに生える。伐採跡地に早くに侵入する。

樹皮は、褐灰色で縦に不規則に裂けて、薄く剥がれる。
葉は対生または3輪生して、長さ5～15cmの楕円形～卵状楕円形。先は細く尖り、縁は浅く鋭い鋸歯がある。革質で表面は無毛、裏面には脈状と脈腋に伏毛が生える。葉柄は長さ4cm程度。



花は両性花で、7～9月頃に、枝先に長さ8～30cmの円錐形の花序を頂生させる。周縁の装飾花は、長さ1～2cmの円形で、白色の萼が3～5個。枯れた花序は翌年まで枝上に残る。

果実は、長さ4～5mmの楕円形。先端に花柱が残る。熟すと萼とともに赤く色づく。種子は長さ3～4mmの線形で、両端に短い翼がある。

バッコヤナギ（ヤナギ科ヤナギ属）

学 名：*Salix bakko*

分布：北海道（南西部）、本州（近畿地方以北）、四国



花は、3～5月頃の展葉前に開花する。雌、雄花序ともに長楕円形で、基部に両面に長軟毛のある苞がある。雄花序は大きく、長さ3～5cm、雄しべは2個で黄色の葯が目立つ。雌花序はやや曲がり、雄花序より小さい。

果実は、5月頃成熟し、裂開して種子をだす。種子は3.5mm程度、長い白色の綿毛に包まれ、風にのり遠くまで運ばれる。

落葉高木で、高さ3～10mになる。雌雄異株。山地や丘陵の明るいやや乾燥した場所に生える。

樹皮は、暗灰色で、縦に浅く割れる。皮をはいだ裸材には、隆起線がある。葉は互生して、長さ10～15cmの楕円形～長楕円形。先端は鋭く尖り、縁にはふつう波状の鋸歯がある。葉は皮質で厚く、表面は深緑色で無毛でやや光沢があり、葉脈はくぼんでしわ状になる。裏面は粉白色で、白い縮毛が密生する。新葉は縁が裏側に巻く。秋に黄葉する。

ヒサカキ（ツバキ科ヒサカキ属）

学 名：*Eurya japonica*

分布：本州（青森県を除く）、四国、九州、沖縄



葉は互生して、長さ3～7cmの楕円形～倒披針形で、側枝では2列に並んでつく。先は鈍く、縁には浅い鋸歯がある。革質で表面には光沢があり、裏面は淡緑色。両面ともに無毛。葉柄は2mm程度で短い。



常緑小高木で、高さ10mに達する。やや乾燥した丘陵地に、ふつうに生える。雌雄異株。

花は、3～4月頃に、葉腋に直径2.5～5mmの鐘形から壺形の花を1～3個束生する。花は下向きにつき、強い臭気がある。花弁は5個で、帯黄白色。

果実は多肉質で、直径4～5mmの球形。熟すと紫黒色となり、なかの種子は10～20個程度で、網目模様がある赤褐色。

ヒノキ（ヒノキ科ヒノキ属）

学 名：*Chamaecyparis obtusa*

分布：本州（福島県以南）、四国、九州（屋久島まで）



花は、4月頃に、雄花、雌花とも枝先に1個つく。雄花は2～3mmの楕円形で、雌花は球形で3～5mm。



果実は球果で、直径1cm程度、秋に成熟し赤褐色になり、敷石状に接した楕型の鱗片が裂開する。鱗片1つに2～4個ずつ種子をつける。種子は赤褐色で光沢があり直径約3mm、両側に翼がある。



常緑高木で、大きいものは樹高30mに達する。

山地に生える。主要な林業樹種として各地に広く植林されている。材は、黄白色で光沢があり腐りにくく、日本の針葉樹の中で最も評価が高い。

幹は直立して、樹形は整った円錐型となる。樹皮は灰褐色～赤褐色で、縦裂し薄く長い裂片にはがれる。特有の香りがある。葉は長さ1～3mmの鱗片状で、密に十字対生して茎を包み、平面に展開する。鱗片は鈍頭で尖らない。表面は光沢のある深緑色、裏面は淡緑色で葉の接する溝に白色の気孔帯（気孔の集まり）がありY字形にみえる。

ヒメコウゾ（クワ科カジノキ属）

学 名：*Broussonetia kazinoki*

分布：本州、四国、九州（奄美大島まで）



落葉高低木で、高さ2～5mになる。

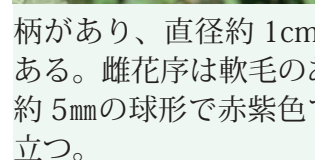
丘陵から低い山地の林縁や道端にふつうに生える。

樹皮は褐色で、楕円形の小さな皮目が目立つ。

葉は互生して、長さ4～10cm、幅2～5cmの卵形。先端は尾状に長く尖り、縁にやや細かい鈍い鋸歯がある。切れ込みのないものから、ときに2～3裂するものもあり変化が大きい。葉質は薄く、表面は短毛が散生してざらつく。裏面は脈上に短毛を密生する。葉柄は長さ5～10mmで短毛が散生する。紅葉は黄色。



花は雄花と雌花があり、4～5月頃、新枝の葉腋に花序を1個つけ、上部に雌花序、下部に雄花序がつく。雄花序は長さ1cm程の柄があり、直径約1cmの球形で背面に軟毛がある。雌花序は軟毛のある短い柄をもち、直径約5mmの球形で赤紫色で長さ約5mmの花柱が目立つ。



果実は集合果で、直径約1～1.5cmの球形。6～7月に橙赤色に熟す。多肉質で甘く、食べられるが、とげのある感触があって、口当たりが悪い。種子は、約40個程度入っている。



フジ (マメ科フジ属)

学 名: *Wisteria floribunda*

分布: 本州、四国、九州



花は両性花で、5月頃に、枝先に長さ20～100cmの大きな総状の花序が下垂して伸び、長さ1.5～2cmの紫色または淡紅色の蝶形花をたくさんつける。花は基部から先端に向かって咲く。

果実は豆果で、長さ10～20cmの扁平した狭倒卵形。表面には、ビロード状に短毛を密生し果皮は厚い。10～12月頃に熟すと木質となり、冬に乾燥すると2片に裂けながらねじれて、種子を飛び散らせる。種子は直径約1.2cmと大きく、扁平で円形、光沢のある褐色。



落葉性のつる性木本。非常に大きくなるものもある。林縁や明るい林内に生える。

つるは樹木などに左巻きで巻き登る。

樹皮は灰褐色。

葉は互生して、長さ20～30cmの奇数羽状複葉で、狭卵形の小葉が5～9対ある。小葉は長さ4～10cm、薄い革質で縁は全縁。紅葉は黄色。

ミズキ (ミズキ科ミズキ属)

学 名: *Swida controversa*

分布: 北海道、本州、四国、九州



花は両性花で、5～6月頃に、枝先に散房状の花序をだして、白い小さな花を密につける。花弁は長楕円形で4枚あり、平開する。雄しべは4本。

果実は、直径6～7mmの球形。6～10月頃に熟すと赤色から紫黒色になる。花序の枝も赤くなる。先端にくぼみがある。

落葉高木で、高さ10～20mになる。

丘陵地から山地まで生える。

樹皮は白っぽく、縦に細い筋がはいる。

枝を水平に長く伸ばして階層をつくるのが特徴。

葉は互生して、長さ6～15cmの広卵形～楕円形。先端は急に尖り、縁は全縁。表面には光沢があり無毛、裏面は粉白色で伏毛がある。葉柄は長さ2～5cm。



ムラサキシキブ（クマツヅラ科クマツヅラ属）

学 名： *Callicarpa japonica*

分布：北海道、本州、四国、九州、沖縄



落葉低木で、高さ 3m 程度になる。
山野の林内や林縁に生える。

樹皮は灰褐色。裸芽。

枝には若いときに細かい星状毛があるが、のちに無毛となる。

葉は対生して、長さ 6～13cm の長楕円形で、先端が尾状に尖る。縁には細かい鋸歯がある。両面ともに無毛。裏面には帯黄色の腺点がある。



【コムラサキ】



花は両性花で、6～8月頃に、葉の腋から散状の花序をだして、淡紅紫色で上部が4裂して平開する花をつける。雄しべは4本で、長さ3～5mmの花冠より突き出る。

果実は、直径約3mmの球形。熟するとき綺麗な紫色になり、よく目立つ。種子は堅い殻に包まれ、長さ約2mm程度。

ムラサキシキブと比べると、葉の鋸歯が上半分にしかない、花序の枝が葉の腋よりも上につく、果実数（花数）が多いなどの違いがある。

ヤマグワ（クワ科クワ属）

学 名： *Morus australis*

分布：北海道、本州、四国、九州



落葉高木で、高さ 3～15m になる。雌雄異株。
丘陵から低山の林内や林縁部に、ふつうに生える。

樹皮は、褐色で、縦に筋が入り薄くはがれる。

葉は互生して、長さ 6～14cm の卵状広楕円形。先端は尾状に長く尖り、縁にはやや粗く規則正しい単鋸歯がある。深く 3～5 裂の切れ込みのあるものから、浅く裂けるもの、切れ込まないものまで変化が大きい。葉質は薄く微細突起がありざらつく。

花は、4～5月頃、新枝の葉の脇に花序が1個つく。雄花序は長さ 1.5～2cm の円筒形で背面にあら毛のある雄花を多数つける。雌花序は長さ 4～6mm の球形または楕円形で長い花柱をもつ雌花を多数つける。

果実は集合果で、長さ 1～1.5cm の楕円形。はじめは赤く、6～7月に紫黒色に熟する。果実には長い花柱が残る。多肉質で甘く、食べられる。



【マグワ（外来種）】



ヤマグワの先端は尾状に長く尖るが、マグワはあまり尾状には伸びない。果実の花柱は短くヤマグワのように目立たない。養蚕の技術とともに日本に入った。

ヤマハギ (マメ科ハギ属)

学 名: *Lespedeza bicolor*

分布: 北海道、本州、四国、九州



花は両性花で、7～9月頃に、葉の腋から長い総状の花序をだし、長さ1.3～1.5cmの紅紫色の蝶形花をつける。萼は4深列して、先は長く尖る。花序は基部につく葉よりも長い。



果実は豆果で、長さ5～7mmの平たい楕円形。種子は1個、長さ2mm程度。

落葉低木で、高さ1～2mになる。日当たりのよい山地や林縁などに生える。のり面緑化で、主要な樹種として多く使用される。

枝はよく分枝する。

葉は、羽状の3小葉で、小葉は長さ2～4cmの広楕円形～広卵形。先は丸い。表面はふつう無毛または若いときの短毛が残る。裏面には伏毛がある。



ヤマハゼ (ウルシ科ウルシ属)

学 名: *Rhus sylvestris*

分布: 本州 (関東地方以西)、四国、九州、沖縄



落葉小高木で、高さ5～8mになる。雌雄異株。山地の林内や林縁に生える。

樹皮は褐色で平滑、はじめはイボ状の皮目が目立つが、次第に裂け目が入る。裸芽。

葉は互生して、長さ20～40cmの奇数羽状複葉。小葉は長さ4～13cmで、卵状長楕円形が4～6対ある。先がやや長く尖り、縁は全縁。両面に毛が散生する。秋に紅葉する。

花は、5～6月頃に、葉の腋またはそのやや上部から長さ10～20cmの円錐状の花序をだし、黄緑色の小さな花をたくさんつける。花弁は長さ2mm程度の楕円形で5枚。雄しべは花の外につきでる。



果実は、直径7～8mmのやや扁平した球形でなめらかな光沢があり、無毛。10～11月に熟すと黄褐色になる。種子は堅い殻に包まれ、明るい黄緑色。



ヤマブドウ（ブドウ科ブドウ属）

学 名： *Vitis coignetiae*

分布：北海道、本州、四国



落葉性のつる性木本。雌雄異株。
山地の林縁や沢沿いに生える。

巻きひげで樹木に絡みついて登る。
若い枝には、はじめ白く、やがて帯赤褐色に変わる綿くず様のクモ毛があるが、のちにはげ落ちる。
葉は互生して、長さ 10～30cm の大型の円心形で 3～5 浅裂する。縁には浅く鋭い鋸歯がある。
表面のクモ毛は後に落ち、裏面と葉柄のクモ毛ははげ落ちながら秋まで残る。網脈が隆起する。葉柄は長さ 20cm と長い。

花は、6～7 月頃に、葉と対生して長さ約 20cm、下部に巻きひげのある円錐状の花序をだして、黄緑色の小さな花をたくさんつける。雄しべが長い。
果実は多肉質で、直径 8mm 程度の球形。10 月頃に紫黒色に熟し、表面に紫色を帯びた白粉がつく。完熟した果実は、甘みと酸味があり、食用される。種子は、長さ 5mm 程度で表面に光沢がある。



リョウブ（リョウブ科リョウブ属）

学 名： *Clethra barvinervis*

分布：北海道（南部）、本州、四国、九州



落葉小高木で、高さ 8～10m になる。
山地や丘陵地の乾いた林内に生える。

樹皮は薄片となつてはがれ落ちて、茶褐色などのなめらかなまだら模様になる。枝は輪生状にでる。葉は互生して、長さ 6～15cm の倒卵状の長楕円形を枝先に集まってつける。先が尖り、縁には尖った鋸歯がある。表面は無毛で、裏面の主脈上に粗い毛が、側脈の基部に軟毛がある。紅葉は茶褐色。



花は両性花で、6～8 月頃に、枝先に長さ 10～20cm の総状花序を数本だして、白い花をたくさんつける。花弁は 5 枚。雄しべと雌しべは花冠よりもつき出る。

果実は、直径 3～4mm の球形。毛が密生する。熟すと、長さ 1mm 程度で楕円形の種子をたくさんだす。

IV. 木本植物（外来種）

イタチハギ（マメ科イタチハギ属）

学 名：*Amorpha fruitcosa*

分布：北アメリカ原産



花は両性花で、5～6月頃に、枝先に長さ6～20cmの穂のような総状の花序を数個だす。花はたくさん密集した、長さ8mm程度の黒紫色。花は濃紫色の旗弁しかなく、他のマメ科の花とは異なる。花糸は紫色、葯は黄色でよく目立つ。



落葉低木で、高さ2～5mになる。平地や山地の開発地や山地の崩壊地、道ばたや河原の裸地などに生える。

樹皮は灰褐色。

葉は互生して、長さ10～30cmの偶数または奇数羽状複葉で、小葉が5～10対ある。小葉は長さ2～3.5cmの長楕円形～卵状長楕円形。縁は全縁。裏面には腺点がある。



果実は豆果で、長さ1cm程度の扁平した狭楕円形。表面に多数の水疱状のイボがある。熟しても裂開しない。豆果の中の種子は1個。

ギンネム（マメ科ギンゴウカン属）

学 名：*Leucaena leucocephala*

分布：メキシコ～中央アメリカ原産



花は両性花で1年中みられ、枝先に長さ3～5cmの柄の先に、直径2～3cmの球状の花序をつける。たくさんある雄しべは長くて白いため、花が白く見える。



果実は豆果で、長さ10～17cmの扁平した線形。黒褐色に熟すと、裂開して15～25個の光沢のある卵状楕円形の長さ1cm程度の種子をだす。

常緑低木～小高木で、高さ5mになる。沖縄や小笠原の日当たりのよい平地や山地の乾燥したところでよく生える。

葉は互生し、葉軸の長さ12～20cmの2回偶数羽状複葉。各羽片は長さ6～10cmで、小葉が14～16対つく。小葉は対生してつき、長さ8～13mmの長卵形または狭卵形、先が尖る。両面ともに無毛。



トウネズミモチ（モクセイ科イボタノキ属）

学 名：*Ligustrum lucidum*

分布：中国原産



花は両性花で、6～7月頃に、新枝の先に長さ10～20cmの大型の円錐状の花序をだす。花は直径4～5mm、長さ3～4mmの白い花をたくさんつける。雄しべと雌しべは花筒からつきでる。

果実は多肉質で、長さ8～10mm、直径5～6mmの楕円形。10月～12月にたわわにつき、熟すと黒紫色になり白い粉をかぶる。種子は、黒色で表面にはしわがある。

常緑高木で、高さ10～15mになる。平地の空き地や道ばた、河原の裸地などに生える。樹皮は、灰褐色で、皮目が多い。葉は対生して、長さ6～12cmの卵状楕円形。基部からしだいに細くなって先が長く尖る。縁は全縁。葉質は厚い革質でかたく、表面は濃緑色で光沢がある。裏面は淡緑色で、側脈が太陽にかざすと明瞭に見える。両面ともに無毛。

ニセアカシア（マメ科ハリエンジュ属） 別名：ハリエンジュ

学 名：*Robinia pseudoacacia*

分布：北アメリカ原産



花は両性花で、5～6月頃に、葉腋から長さ10～15cmの総状の花序をだして密生する。下垂した花序に長さ2cm程度の芳香のある白い蝶形花をたくさんつける。

果実は豆果で、長さ5～10cmの広線形で、無毛。10月頃に熟すと2つに裂開し、3～10個の堅い種子をだす。

落葉高木で、高さ15～20mになる。市街地や海岸から低山地までの荒れ地、斜面などに生える。しばしば群生する。樹皮は淡褐色で網状の割れ目がある。若木には対生する大きな刺がある。枝はもろく折れやすい。葉は互生して、長さ12～25cmの奇数羽状複葉。小葉は対生して3～11対あり、長さ2.5～5cmので楕円形。縁は全縁。質は薄く、無毛。

